

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時に職員全員で運営理念を唱和し共有しております。自立支援を中心とできることはご自身でやっていただいています。	運営理念は事務室壁に掲示して朝礼で職員が唱和し周知を図っています。「自立を支援する」方針の実践では自室・フロアの掃除、洗濯など入居者が行き、出来なかった人もそれを真似て自ら行動するようになった事例がありました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症の問題から地域のイベントを控えておりましたが、徐々に夏祭り等のイベントに参加しています。	昨年「夏祭り」に参加しましたが、感染症予防対策でマスク着用、混雑をさけ少し離れての参加でした。外出は基本車椅子なので職員と1対1で実施しています。地域のグループホーム協議会に参加して交流・情報交換をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加していただき会議を通して認知症についての取組等を知っていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より施設内での開催を開始し、ご報告させていただいています。貴重なご意見をお聞きしサービスの見直し等を行っています。	運営推進会議を施設内で開催しています。町会長をはじめ関係機関、民生委員、施設管理者、利用者が参加して取り組み状況等の話し合いをしています。最近の事例では事故報告を受け再発防止の対策が作られました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議開催報告、事故報告等を通じ助言やご指導を頂いております。	市の窓口とは例えば生活保護者については定期的に連携しています。相談事は発生時に連絡を取り合います。市の案内で包括支援センター主催の「車椅子」研修があり3名が参加しました。受講者が講師となり職員研修を行いました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修で指針読み合わせなどを行い身体拘束適正化防止検討委員会では現状報告後、助言やご指導をいただいております。	外部研修は3名が参加し内部研修は全員が年1回行いました。身体拘束適正化防止検討委員会の報告は運営推進会議で報告します。運営推進委員会会議の議事録は全利用者家族に送付しています。夜間の玄関の施錠は防犯上の理由から行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行っております。また虐待へとつながる事例がある時はその都度話し合いの場を設け防止に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名の方が後見人制度を利用しています。制度については後見人の方よりご説明を受けております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご家族様ご本人様同席のもとご説明をさせていただいております。内容に変更がある場合は再度ご説明をさせていただき同意の署名捺印をいただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時にご意見やご要望をお聞かしています。	家族の来訪は個人差があり来訪しない家族の方が多いと思います。面会がない家族とは電話が意見を聞く手段となっていますが繋がらない場合もあります。施設では毎月の請求書に手紙や写真を添えて利用者の現状を家族に報告しています。	一部の家族からは意見を聞くことが難しい状況です。施設は、利用者の居住する居住環境、生活状況に家族の目が向くような工夫をして、より多くの家族からの意見の収集に努めることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議を行い意見や提案をしています。	職員は「グループホーム会議」で自由に意見を述べる事が出来ます。個人面談の機会があり個人的な意見交換が出来ます。運営に変更があった場合「申し送りノート」(全員が閲覧し押印する)に記録し朝礼にて発表し職員へ周知します。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	自己評価を実施。体調面や勤務時間等については個々に面談を行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部の研修に積極的に参加しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加盟。オンライン会議や交流会に参加しております。運営推進会議での情報を共有しサービス交渉に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個別性を重視し、その人に沿ったケアを把握するようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	運営推進会議や担当者会議などでご家族様の要望をお聞きしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族の必要としているサービスを聞き取り多職種と連携を取り決定させていただいております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力を発揮できる環境づくりに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族から過去の情報を得たりケアのアイデアをうかがうこともあります。以前は誕生会やバス旅行にも参加していただきました。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で気軽に外出ができない状況です。電話はお手紙は変わらず対応させていただいております。	今般の感染症の発生の影響で外出は制限しています(マスク着用、人混みを避ける)。外気浴のため利用者1日2名(利用者1名に職員1名が対応)、1人で週1回外出をスケジュールしています。買い物は近隣のお店で個人の必需品、お菓子など買います。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士が声を掛け合い合唱したりすることもあります。世話好きな方もいらっしゃいますがトラブルにならない様見守りを行いながら補助をさせていただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	残っている事務手続きなどで連絡を取りあっています。相談があった場合は可能な限り対応させていただいております。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の意向を傾聴し改善に努めています。伝えられないご利用者様の表情や仕草で以降の把握に努めています。	利用者の意向に出来るだけ沿うよう努めています。要望は「申し送りノート」に記録して職員が共有します。例えば、外出が出来ないとき、希望があるとベランダ浴、玄関先で外気と接するなどします。どうしても希望が叶わない事は信頼関係にある職員か、看護師、医師から話して納得してもらいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族様や本人から聞き取りを行い情報を共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体操や塗り絵、家事などその方の能力に応じて無理せずできる事を継続しています。周りに影響されご自分から参加される方もいらっしゃいます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	体調に変化が見られた時は、カンファレンスを行い、ご家族や医師に相談し計画書を作成しています。	介護計画はケアマネ、利用者(家族)が相談しが作成します。新規入居者は1か月後に見直しを入れ、通常はモニタリングを見ながら半年位で見直しています。変更があれば「申し送りノート」に記録し職員に周知します。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録で共有しています。その申し送りノートや引継ぎ時に共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	情報を把握しながらカンファレンスを行い柔軟な対応を心がけております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	神社に初詣に出かけたり近所のスーパーに買い物に出かけています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診で健康上の相談を行っています。必要であれば医師より家族へ説明の連絡をしていただいています。	新たな入居者には施設の協力医療機関を受診してもらうようにしています。かかりつけ医を受診する方は2名いて、1名は家族が、1名は職員が送迎しています。協力医は月2回の往診で必要に応じ医師から家族への説明もしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変時は速やかに看護師に報告、必要であれば医師へ連絡、対応方法などのご指導をいただいております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後の経過観察の報告や退院に向けての留意点等必要な情報を共有しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様立ち合いのもと意向をお聞きしカンファレンスを開き方針を決めています。	基本的には看取りを行う体制になっています。契約時に説明をして同意書をもらい、その後看取り段階に入る際に家族等の意見を聞いて再度同意書をもらいます。その際、家族の意向を聴取して看取りの方針を決めます。昨年は4名の看取りがありました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの読み合わせ医師や看護師より助言を頂きながら内部研修を実施しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ前は地域の方々に合同避難訓練の参加を依頼していた。以前のように地域の協力が得られるよう働きかけるとともに、日頃から訓練を通しシミュレーションを行いたいざと言うときの為に動けるようにしている。	避難訓練の実施記録があります。それによればほぼ毎月1回、火災、地震等に備え利用者も含め訓練を実施しています。その他備蓄品の点検も行っています。消防署はコロナ禍を理由に訓練に協力してもらえません。備蓄品は水、乾パン、衛生用品等を用意しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーについての研修をおこなっております。問題があればその都度注意をしています。	利用者の人格の尊重とプライバシーの保護は常に意識を共有するよにしています。関連施設全体の職員を対象にするプライバシーの研修をオンラインで実施しています。問題事例には都度注意を喚起しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り希望に合うよう支援しています。自己決定ができるような声掛けを行うようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中の過ごし方はご利用者様の希望でお過ごしいただいております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の衣類準備にはご自身で選んでいただいております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や特別な日はご利用者様にお聞きし可能な限り用意をさせていただきます。	コロナ禍後は副食は外注品を湯せんして提供しています。ご飯と味噌汁は職員が作っています。介護度があがり利用者が手伝う機会は減っています。正月、誕生会、夏祭り、Xマス等には行事食を提供しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師や看護師と相談し状態に応じて水分量や食事の形態を変えています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っております。必要に応じて介助をしたり液体の物を使用し清潔を保っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄パターンを把握しています。立位の取れない方でも二人介助で誘導しトイレでの排泄ができるように支援しています。	排泄チェック表を活用してパターンを把握し自立に向けた支援をしています。左欄記載の例のほか、退院時にオムツ使用と言われた利用者が支援の結果、リハパンに戻れ、尿意も感じ失禁も減少した例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師や看護師に相談しながら排便コントロールをしています。バナナヨーグルトや食事などでその時に応じ対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	言葉がけや対応する職員を変え入浴のタイミングをうかがうようにしています。菖蒲湯やゆず湯で楽しんでいただいています。	フロは週2回沸かします。2回とも入る方が多数ですが、1回しか入らない方もいます。その場合は、曜日を変える、職員を代える、診察に来る医師から説得してもらう等の方法で入浴を試みています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に昼寝をしたり体調不良などでお部屋で過ごしたい方は各居室で過ごしていただいております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表ファイルを確認しています。変更や追加があれば目的、時間、用量等を申し送りノートで共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれが得意としているものや能力に応じてお願いをしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で家族との外出は控えています。人混みを避けての散歩や、混雑時を避けた時間帯での買い物は再開しています。	「外気浴予定表」を組んで日常の外出を支援しています。クルマ椅子の利用者も参加しています。日用品程度の買い物は近くの商店を利用しています。ただ、介護度が上がり外出したがる利用者もいます。外出支援のボランティアは利用していません。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理は管理者がおこなっております。日用品などの購入時に現金をお渡しし見守りながらお支払いをお願いしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申出があれば電話のとりつぎ、手紙は代筆等で対応させていただいております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が味わえるように工夫し、ご利用者様と一緒に掲示物を作っています。感染予防の為湿度や温度管理を行っております。	リビング(食堂)にはさくらの飾付け、花模様の飾り物などで季節を感じさせています。その他、利用者の行事の写真、職員の顔写真など掲示しています。飾り物は職員が企画し作業、飾付けなどを利用者の手伝ってもらいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆が楽しめるよう席を変えたり、ご自分で移動され日向ぼっこを楽しまれたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や仏壇、お孫さんなどの写真を飾りその人らしい部屋を作っています。家具の配置は安全に過ごせるよう、ご家族様ご本人様と相談しています。	居室はベット、エアコン、クルマ椅子を用意し、その他は生活しやすいよう自由に持ち込んでよいことになっています。それぞれ仏壇、家族の写真等持ち込んでいます。家具の配置も安全に配慮して設置しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置が分かるように目印をつけたり、ご自分の座布団やひざ掛けなどを置き席をわかりやすくしております。		